

最初にお読み下さい

リリースノート

CentreNET PC/TCP Ver. 6.0

文書番号 : p600.relnote ver 1.2 pl 0 Jun. 1996

この度はCentreNET PC/TCP Ver 6.0 をお買い上げいただきましてありがとうございました。この冊子は、インストール方法や、他のマニュアルに記載されていない内容、製品仕様の変更点などの最新情報が説明されています。**インストールする前に必ずお読みください。**

記述内容

1.	本製品に添付されている情報について	3
2.	新たに追加、変更された機能について	4
2.1	Windows アプリケーション	4
2.2	DOS アプリケーション	5
2.3	共通	5
3.	インストールについて	6
3.1	情報の収集	6
3.2	リモートホストの設定	6
3.3	イーサネットアダプタのインストール	7
3.4	PC/TCP (DOS) のインストール	7
3.5	PC/TCP (Windows) のインストール†6	7
3.6	動作テスト	8
3.7	運用	8
3.8	インストール方式の選択	8
3.9	インストールに必要な資材	8
3.10	リモートホストの設定	9
3.11	インストールプログラムの操作方法	10
4.	インストールの実行	11
4.1	MS-DOS のみを使用する	13
4.2	MS-DOS と Windows3.1 で使用する	33
4.3	Windows95 または Windows NT で使用する	38
5.	Windows95, Windows NT 上で使用する際のご注意	45
6.	弊社 SIC シリーズ使用時の注意点	46
7.	Ver.3x 以前からのバージョンアップ	46
8.	X-Server98/AXの環境	46
9.	ダイヤルアップPPPのインストール	47
10.	インストールのエラー回避 (イーサネット)	53
11.	pctcp.ini エディタ (confe)	57
12.	Unsupported Disk について	59
13.	pcnfsd のコンパイル、インストール	59
14.	PPP機能PCMCIAモデムカード使用方法(PC98/DOS版)	60
	ご注意	63
	商標について	63

1. 本製品に添付されている情報について

¥PCTCP¥README.TXT(DOS 用情報)

¥PCTCP¥README.WRI(Windows 用情報)

リリースノートやマニュアルに記載されていない補足的な情報や(特定のアプリケーション、パソコン機種における障害の回避の方法)、最新のバグフィックス、仕様変更の情報が記述されています。必ずお読みください。

リリースノート

この冊子です。PC/TCP のインストールの方法、他のマニュアルに記載されていない内容や、製品仕様の変更点などの最新情報が書かれています。必ずインストールする前にお読みください。

User's Guide Manual

PC/TCP ソフトウェアの使い方について説明しています。基礎的なことから始め、より高度な使い方ができるように、例を挙げながらストーリー立てて説明されており、「PC/TCPを始めて使用する」とか「LANの導入は初めてだ」というような方は是非お読みください。

Command Reference Manual

各コマンドが取るオプション、PC/TCP の設定ファイル、エラーメッセージなどの詳細を説明しています。

Quick Reference

各コマンドが取るオプションを簡潔にまとめたリファレンスです。

Netscape Navigator

Netscape Navigator のインストールや使用方法について簡素にまとめた冊子です。

InterDrive Manual

Advanced Kit にのみ同梱されているマニュアルで、パソコンで NFS クライアントを実現する「InterDrive」に関して説明しています。User's Guide Manual の第 1, 2 章をお読みになり、このマニュアルに進んでください。

2. 新たに追加、変更された機能について

ここでは本バージョンから新規に追加、変更されたコマンドについて説明します。

2.1 Windows アプリケーション

- (1) WVTN ログインスクリプトファイル機能
BBS へ Internet 経由で簡単にログインすることができます。
- (2) チャットの機能 (WMSG.EXE)
サーバを必要としない簡単な電子メールです。WMSGを起動しているパソコン同士でメッセージの交換が可能になります。
- (3) WPING のルートトレース機能
WPING のメニューコマンドの「コマンド」-「ルートトレース」を選択しPINGを行うと、パソコン-ホストの間でパケットを中継したルータのアドレス一覧が表示されます。
- (4) TFTP クライアント / TFTP サーバ機能(WTFTPSRV.EXE, TFTP.EXE)
TFTP サーバ、クライアント機能が Windows 上で可能になります。
- (5) WFTP GUI の改善
WFTP の GUI の改善をしました。ディレクトリツリー情報などより使いやすくなります。
- (6) InterDrive(NFS) LOGIN/LOGOUT 機能(Advanced Kit のみ)
InterDrive を常駐してすぐに Windows を起動すると「自動ログイン」、「ログイン」といったダイアログボックスが表示されます。ユーザ名、パスワードを一度登録しておくこととマウントする度にログインする手間が省けます。InterDrive を解除するまで有効です。
- (7) InterDrive(NFS) GUI の改善
リモートドライブ、リモートプリンタの登録情報を MS-DOS の IDMNT, IDPRINT コマンドと共通化しました。また、登録の追加、削除メニューを追加したことにより WNETCTL から簡単に登録情報の追加、削除が可能となります。

2.2 DOS アプリケーション

- (1) InterDrive(NFS) GUI の改善
登録の追加、削除メニューを追加したことによりCONFЕ コマンドで簡単に登録情報の追加、削除が可能となります。
- (2) LPR プロトコル 対応 PRINT BIOS リダイレクタ
MS-DOS アプリケーションから、LPD 機能を持つネットワーク対応プリンタへの出力が可能です。
- (3) DHCP クライアント機能

2.3 共通

- (1) InterDrive(NFS) ハイパフォーマンス設定
- (2) PPP 接続用シリアルドライバの PC-9821 高速転送モード対応

3. インストールについて

この章では、PC/TCP パッケージのインストールについて説明します。ダイアルアップ PPP、ダイアルアップ SLIP のインストールについての詳細は、「12. ダイアルアップ PPP のインストール」、User's Guide Manual の付録をご覧ください。

インストールは DOS 上からでも Windows 上からでも可能です。お客様の使用状況に合わせて、インストール方法をお選びください。PC/TCP パッケージは通信のメディアとして、イーサネット (Local Area Network、LAN)、ダイアルアップ PPP、ダイアルアップ SLIP に対応しています。

LAN において、PC/TCP をパソコンにインストールし、リモートホスト (UNIXワークステーション) と通信ができるようになるまでの作業の概要は以下の通りです。

3.1 情報の収集

これからインストールしようとしているパソコンのホスト名、IP アドレスなどを決定したり、インストールに必要な情報を収集します。お客様がシステムを使用するだけのユーザであるなら、システム管理者に相談してください。お客様がシステム管理者という立場の方なら、他のユーザの相談にのってあげてください。^{†1}

3.2 リモートホストの設定

パソコンからリモートホスト (UNIXワークステーション) を使用するための設定を、リモートホストに施してください。リモートホストの設定は、システム管理者に施してもらいます。

^{†1} インストールの結果、すなわち PC/TCP のインストールによって、`config.sys`、`autoexec.bat`、`pctcp.ini`、`net.cfg (odi)`、`protocol.ini (ndis)` ファイルがどのように変更されるかについては、付録をご覧ください。また、エディタを使用し、これらのファイルを編集しなければならない場合、「User's Guide Manual」付録Aをご覧ください。

3.3 イーサネットアダプタのインストール

イーサネットアダプタをパソコンに取り付け、パソコンをネットワークに接続します^{†2}。作業の詳細は、ご使用になるイーサネットアダプタのマニュアルをご覧ください。

NetWare、LAN Manager と PC/TCP の共存環境を構築する最も簡単な方法は、(1) まず NetWare、もしくは LAN Manager をインストールした後、(2) PC/TCP のインストールを行うことです^{†3}。(1)、(2)ともそれぞれのパッケージに添付されているインストーラ(インストールプログラム)によってインストールすることができ、メニューを選択することによって全ての設定が行われます^{†4}。

3.4 PC/TCP (DOS) のインストール

PC/TCP パッケージのうち、DOS 関連のファイルをインストールします。インストールには、下記の5つの種別があります。「7.1 MS-DOSのみを使用する」手順5.をご覧ください。インストールを実行する前にあらかじめ種別を決定しておいてください。

- ・バージョンアップ
- ・パッチレベルアップ^{†5}
- ・新規...標準構成
- ・新規...最小構成
- ・アダプタのみ

3.5 PC/TCP (Windows) のインストール^{†6}

PC/TCP パッケージのうち Windows 関連のファイルをインストールします。Windows 関連のインストールは、Windows の中から実行します。Windows 環境の下で PC/TCP を使用しない場合、インストールは不要です。

^{†2} PC/TCP のみの環境を構築する場合、ドライバは PC/TCP のインストーラでインストールします。

^{†3} ドライバは、NetWare、LAN Manager のインストーラによってインストールされ、PC/TCP のインストールでは NetWare、LAN Manager のインストール先ディレクトリを指定します。

^{†4} なんらかの理由により、PC/TCP をインストールした後、NetWare、LAN Manager をインストールしなければならない場合、config.sys、autoexec.bat、net.cfg (odi)、protocol.ini (ndis) ファイルの編集が必要となります。詳細は、「User's Guide Manual」付録A をご覧ください。

^{†5} プログラムのパッチレベル (pl.) の番号によっては、このメニューが表示されないことがあります。

^{†6} Windows 上からでも DOS 関連のファイルをインストールすることは可能です。

3.6 動作テスト

簡単な動作テストを行ない、トラブルが発生したら原因を調査し解決します。

3.7 運用

運用を開始します。

3.8 インストール方式の選択

PC/TCP を使用する OS でインストール項目が違ってきます。使用する OS にあてはまる項目をお読みください。

- ・ MS-DOS のみ -----> 4.1 MS-DOS のみを使用する
- ・ MS-DOS と Windows3.1 -----> 4.2 MS-DOS と Windows3.1 で使用する
- ・ Windows95 または Windows NT -----> 4.3 Windows95 または Windows NT で使用する

Windows 3.1 のみというお客様は「7.2 MS-DOS と Windows3.1で使用する」をお読みください。

3.9 インストールに必要な資材

1. CentreNET PC/TCP

- ・ 供給ディスク
- ・ ユーザーズガイド(このマニュアル)

2. イーサネットアダプタ

- ・ イーサネットアダプタ
- ・ ドライバディスク^{†7} (パケットドライバ、ODIドライバ、NDISドライバを供給するディスク)
- ・ ユーザーズマニュアル

3. ケーブル類

- ・ ご使用になるネットワークのメディアに合わせたケーブル類をご用意ください。

^{†7} 「ドライバディスク」は、アライドテレシス製イーサネットアダプタにおける呼び名です。

3.10 リモートホストの設定

PC/TCP パッケージをインストールするパソコンからリモートホスト (UNIX ワークステーション) を使用するために、以下の設定をリモートホストに施してください。以下のものは、PC/TCP を使用するために最低限必要なものです。PC/TCP コマンドの種類によっては、更に設定の追加が必要なこともあります (User's Guide Manual 第 3 章参照)。

お客様がシステム管理者という立場の方なら、他のユーザのためにこれらの設定をリモートホストに施してください (UNIXワークステーションの機種により、これらの設定方法は異なります。ご使用になる UNIX のマニュアルをご覧ください)。お客様がシステムを使用するだけユーザであるならば、これらの設定についてシステム管理者に相談してください。

ユーザ名

リモートホストにログインするときに使用する名前です。リモートホストはユーザ名でお客様 (ユーザ) を識別します。ユーザ名がリモートホストに登録されていない場合、お客様はそのリモートホストを使用することができません。BSD 系 UNIX の場合、ユーザ名は /etc/passwd ファイルに登録します。

パスワード

リモートホストを使用するとき (ログインするとき) に必要な合言葉です。リモートホストにおけるお客様のプライバシーを守るためにも、必ず設定してください。また、パスワードが設定されていない場合、使用できないコマンドもあります (ftp.exe など)。

ホームディレクトリ

ホームディレクトリは、リモートホストにおけるお客様の作業環境です。通常は、ディレクトリ /home 下のお客様のユーザ名と同じディレクトリ名を作成します。下記に、例を示します。

```
/home/emi
```

パソコンのホスト名、IP アドレス

PC/TCP をインストールしようとしているパソコンのホスト名、IP アドレスを決定し、リモートホストに登録してください。例えば、BSD 系 UNIX の場合、これらの情報は /etc/hosts ファイルに登録します。これが設定されていない場合、後述する PC/TCP アプリケーションの多くのコマンドが使用できません (Rコマンド、Advanced Kit の InterDrive)。

3.11 インストールプログラムの操作方法

下記にインストールプログラム「install」コマンドの基本的なキー操作方法を示します。

メニュー画面

下記のような画面です。いくつかの項目の中で白黒反転している項目が現在選択されています。カーソルキー「↑」、「↓」、「←」、「→」によって反転部分を移動させ、目的の項目でリターンキーを押すことによって確定したり、新たな設定画面が表示されます。

はい	いいえ
----	-----

バージョンアップ
パッチレベルアップ
新規...標準構成
新規...最小構成
アダプタのみ

入力画面

ディレクトリ名、ホスト名などの文字列を入力する画面で、例えば下記のような画面です。キーボードから文字列を入力し、リターンキーを押すことによってパソコンに受け入れられます。リターンキーを押す前であれば、バックスペースキー (BS)、デリートキー (DEL) により文字を削除し、修正することができます。

PC/TCP をインストールするディレクトリを指定して下さい。
A:¥PCTCP

キャンセル

メニュー画面や入力画面が表示されているときに、ESC キーを押すとひとつ前の画面に戻ることができます。これにより、リターンキーを押してしまった後に文字入力や選択の間違いに気づいても、インストールを最初からやり直さなくて済みます。数回、ESC を押すと押した回数だけ前の画面に戻ることができます。ただし、パソコンがコピー処理などを実行しているときなどに、ESC キーを押すと、インストール自身がキャンセルされます。

4. インストールの実行

この節では、PC/TCP パッケージに含まれる DOS アプリケーションのインストール手順を説明します。

ここでは、インストール対象のパソコンとして PC-98 シリーズ、起動ドライブを A:、フロッピードライブを B: と仮定して説明します。DOS/V の場合は、A: を C:、B: を A: に読みかえてください。

また、インストールの途中でエラーが表示された場合、「9. インストールのエラー回避 (イーサネット)」をお読みください。

DOS 上の重要なファイルのバックアップ

PC/TCP のインストールを実行すると、config.sys、autoexec.bat^{†8} に PC/TCP のための設定 (記述) が書き加えられます。また、既に NetWare、NetWare Lite、LAN Manager などをご使用になっており、それらのネットワーク環境と PC/TCP を共存させる場合は、既存のネットワークの設定ファイルである net.cfg (NetWare、NetWare Lite)、protocol.ini (LAN Manager) にも、PC/TCP のための記述が書き加えられます。

既存のこれらのファイルは、拡張子が数字 (*.000 など) に改名されて保存されますが、以下の方法でバックアップを取っておくと、不慮の原因などでインストールが失敗してしまっても簡単にやり直しができます。

これからインストールしようとしているパソコンで、以下のコマンドを入力します。ここでは、バックアップを保管するディレクトリとして、「¥bak」

を仮定します。既に、同一名のディレクトリが存在する場合は、別の名前にしてください。また、フロッピーディスクにバックアップを取っておくのもよい方法です。

```
A:¥>mkdir ¥bak
A:¥>copy ¥config.sys ¥bak
A:¥>copy ¥autoexec.bat ¥bak
```

^{†8} config.sys、autoexec.bat は、パソコンが起動するとき、ロードされるデバイスや、実行されるコマンドなどを記述しておく設定ファイルで、お客様のパソコンの作業環境を決定する重要なファイルです。

NetWare、NetWare Lite の設定ファイルをバックアップするには、下記のコマンドを入力します。下記では、net.cfg が保存されているディレクトリを %nwclient と仮定しています。

```
A:%>copy %nwclient%net.cfg %bak
```

LAN Manager の設定ファイルをバックアップするには、下記のコマンドを入力します。下記では、protocol.ini が保存されているディレクトリを %lanman.dos と仮定しています。

```
A:%>copy %lanman.dos%protocol.ini %bak
```

DOS 上の重要なファイルの復旧方法

インストールをやり直さなければならなくなり、バックアップした設定ファイルをもとに戻すには、以下のコマンドを入力します。

```
A:%>copy %bak%config.sys %
```

```
A:%>copy %bak%autoexec.bat %
```

```
A:%>copy %bak%net.cfg %nwclient
```

```
A:%>copy %bak%protocol.ini %lanman.dos
```

Windows 上の重要なファイルのバックアップ

「*.ini」ファイルは、Windows が起動するとき、ロードされるデバイスなどを記述しておく設定ファイルで、Windows の操作環境を決定する重要なファイルです。PC/TCP Windows アプリケーションのインストールを実行すると、Windows の設定ファイル「*.ini」に PC/TCP のための設定が書き加えられます。

以下の方法で、*.ini、*.grp のバックアップを取っておくと、不慮の原因などでインストールが失敗してしまっても簡単にやり直しができます。ここでは、バックアップを保管するディレクトリとして「%windows%bak」を仮定します。既に、同一の名前が存在する場合は、別のディレクトリ名にしてください。フロッピディスクにバックアップをとっておくのもよい方法です。

```
A:%>cd %windows
```

```
A:%WINDOWS>mkdir bak
```

```
A:%WINDOWS>copy *.ini bak
```

```
A:%WINDOWS>copy *.grp bak
```

Windows 上の重要なファイルの復旧方法

インストールをやり直さなければならなくなり、バックアップした設定ファイルをもとに戻すには、以下のコマンドを入力します。

```
A:¥>cd ¥windows¥bak
A:¥WINDOWS¥BAK>copy *.ini ..
A:¥WINDOWS¥BAK>copy *.grp ..
```

4.1 MS-DOS のみを使用する

1. 周辺機器やパソコン本体の電源をいれてください。DOS が立ち上がり、プロンプトが表示されます。ここではプロンプトを「A:¥>」と仮定します (PC-98)。DOS/V パソコンの場合は、通常「C:」となります。

```
A:¥>
```

2. PC/TCP の供給ディスク SetUp Disk #1 をフロッピードライブに挿入し、カレントドライブをその SetUp Disk #1 があるドライブに移動します。ここではフロッピードライブを「B:」、インストール先ドライブを「A:」と仮定します。

```
A:¥>B:
```

3. ご使用になりたいメディア (Ethernet, PPP など) によって下記のように入力します。ここでは、Ethernet(LAN)の場合を例に説明いたします。

Ethernet(LAN)の場合

```
A:¥>install †9
```

^{†9} CD-ROM 版の場合はパソコンの機種別にディレクトリがあります。ご使用になっているパソコンの機種と同じディレクトリに移ってからインストールコマンドを実行してください。

例 (CD ドライブが q: で PC98 を使用していると仮定します。)

```
A:¥>q:
Q:¥>cd ¥pc98
Q:¥pc98>install
```

PPP(Internet ヘダイアルアップ)接続したい場合

A:¥install internet

Internet 以外の PPP 接続に使用したい場合

A:¥install ppp

SLIP 接続に使用したい場合

A:¥install SLIP

4. インストール画面が立ち上がり、以下のようなメッセージが表示されます。リターンキーを押すとインストールが開始されます。

CentreNET P C / T C P Ver6.0 f o r D O Sをインストールするプログラムです。
あらかじめP Cにイーサネットアダプタをセットしておいて下さい。

.....

リターンキーで継続、ESC キーで中止します。

インストール種別の選択

5. インストールの種別を選択してください。

[インストール種別]
バージョンアップ
パッチレベルアップ
新規...標準構成
新規...最小構成
アダプタのみ

バージョンアップ

既に PC/TCP Ver4.x, 5.x を使用しており、バージョンアップの場合に選択してください。バージョンアップを選択すると、Ver 6.0 の DOS プログラムのコピーのみを実行します。config.sys、autoexec.bat、pctcp.ini、net.cfg、protocol.ini などの設定ファイルは修正されないため、Ver 6.0 インストール後も Ver 4.x, 5.x のときの環境がそのまま残ります。

パッチレベルアップ^{†10}

最新のパッチレベル (PL.) のモジュール (プログラム) をインストールする場合に選択してください。パッチレベルアップを選択すると、既存の PC/TCP の環境に影響を与えずに、最新のモジュールのみがコピーされます。

新規...標準構成

PC/TCP Ver 6.0 を初めてインストールする場合や、PC/TCP を再インストールする場合に選択してください。このメニューを選択すると、インストーラは PC/TCP を使用するために必要な情報を質問し、パソコン上に PC/TCP の動作環境を構築します。再インストールの場合、インストールされていた PC/TCP 環境は失われます。標準構成の場合、約 2.4MB (DOS アプリケーションのみ) のディスクを消費します。

PC/TCP Ver 3.x 以前のものからのバージョンアップの場合も、「新規...標準構成」を選択してください。Ver 3.x 以前からのバージョンアップの場合は、「10. Ver. 3.x からのバージョンアップ」もご覧ください。

新規...最小構成

「新規...標準構成」で必要とする空きディスク容量を確保できない場合に選択してください。例えば、フロッピーディスクにインストールする場合や、ノートブック型パソコンの RAM ディスクにインストールする場合などに選択します。最小構成を選択すると、通常の運用で頻繁に使用するコマンドのみコピーされます。最小構成は、約 1MB (DOS アプリケーションのみ) のディスクを消費します。

アダプタのみ

DOS, Windows3.1 へ PC/TCP Ver 6.0 を初めてインストールする場合、この項目を選択することによって最初にアダプタのみをインストールし、その後に Windows3.1 上で PC/TCP Ver6.0 をインストールすることもできます。

^{†10} パッチレベル (PL) は、SetUp Disk に明記されています。また、最新のパッチレベルのモジュールは、パッチレベルキットなどの形で弊社から提供されます。また、このメニュー項目は、パッチレベルの番号によっては、表示されないことがあります。

インストールするディレクトリの指定

6. PC/TCP をインストールするディレクトリを指定します。
PC/TCP は、デフォルトでディレクトリ「A:¥PCTCP」にインストールされます。「A:¥PCTCP」でよければリターンキーを押してください。インストールするディレクトリを変更したい場合、バックスペース (BS)、デリート (DEL) キーを使用して「A:¥PCTCP」を削除し、新たなディレクトリ名を入力してからリターンキーを押してください。手順 7.、8. に示すような問題が発生しなければ、手順 9. の「イーサネットアダプタの選択」画面に進みます。

PC/TCP をインストールするディレクトリを指定して下さい。
A:¥PCTCP

7. 指定されたディレクトリが既に存在している場合、下記が表示されます。指定しているディレクトリに上書きインストールしてもよいなら、「はい」を選択しリターンキーを押してください。「いいえ」を選択すると、手順 (4) の「インストールするディレクトリを指定する画面」に戻ることができます。

A:¥PCTCP¥ はすでに存在しています。 このままインストールを実行するときは「はい」を、別のディレクトリに変更するときは「いいえ」を選択して下さい。	
<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ

8. 下記のメッセージが表示される場合は、インストール先のディスクの空き容量が不足しています。空き容量が充分にある別のディスクを指定するか、インストールを中断し、不要なファイルを削除して、再度インストールコマンドを実行してください。

指定されたディスクは、PC/TCP を動作させるために必要な空容量がありません。ディスクを整理して再度インストールを実行して下さい。	
<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ

イーサネットアダプタの選択

9. 使用するイーサネットアダプタを選択します。

イーサネットアダプタを選択して下さい。

アライドテレシス製イーサネットアダプタ
他社製イーサネットアダプタ
PC/TCP のみインストール

アライドテレシス製イーサネットアダプタ

LA、CE、HE、RE、ME、SIC シリーズなどのアライドテレシス製イーサネットアダプタをご使用になる場合に選択してください。

他社製イーサネットアダプタ

他社製のイーサネットアダプタをご使用になる場合に選択してください。他社製のものをご使用になる場合、PC/TCP のインストールを実行する前に、ドライバのインストールを終了させ、イーサネットアダプタが正常に機能することを確認しておいてください。

PC/TCP のみインストールする

PC/TCP パッケージのみをインストールするときに、選択してください。これを選択すると、PC/TCP の供給ディスクから必要なファイルがコピーされ、config.sys、autoexec.bat、net.cfg (odi)、protocol.ini (ndis) のサンプル、そのまま使用可能な pctcp.ini が作成されます。config.sys などのサンプルは、インストールディレクトリ (デフォルトでは ¥PCTCP) に作成されます。

ドライバのインストール状態

10. ご使用になるイーサネットアダプタのドライバのインストール状態を選択してください。

ドライバのインストール状態

インストールする
インストール済み

インストールする

「PC/TCP とアライドテレシス製イーサネットアダプタをセットで購入しており、PC/TCP しか使用しない」というような場合、この項目を選択してください。これを選択すると、PC/TCP のインストール先ディレクトリに対して (デフォルトでは ¥PCTCP)、イーサネットアダプタのドライバがインストールされます。アライドテレシス製イーサネットアダプタをご使用の場合にのみ、この項目は有効です。「インストールする」を選択した場合、手順 11. に進んでください。

他社製のイーサネットアダプタをご使用の場合、これを選択するとインストールの中断を促されます。強行すれば、手順 9. で「PC/TCP のみインストールする」を選択した場合と同じインストール結果が得られます。他社製イーサネットアダプタをご使用の場合は、あらかじめドライバをインストールした後、PC/TCP のインストールプログラムを実行し、次の「インストール済み」を選択してください。

インストール済み

アライドテレシス製または他社製イーサネットアダプタをご使用で、「既に、NetWare、NetWare Lite、LAN Manager、10NET などのネットワークソフトウェアを使用しているのだが、これからインストールする PC/TCP と共存させたい」というような場合、この項目を選択してください。

また、NetWare などのその他のネットワークソフトウェアと PC/TCP のインストールを同時に行なう場合は、その他のネットワークソフトウェアのインストール行なった後 (ODI、NDIS ドライバをインストールした後)、PC/TCP のインストールを行なってください。

「インストール済み」を選択した場合、手順 20. に進んでください。

11. 現在フロッピードライブに挿入されている Setup Disk #1 をドライバディスクに交換してから、リターンキーを押してください。ここでは、フロッピードライブを B: と仮定しています (PC-98)。

フロッピーディスクをイーサネットアダプタに添付されているドライバディスクに交換して下さい。

ドライバディスクを B: ドライブに入れて下さい。

何かキーを押して下さい。

アライドテレシス製ドライバの選択

12. ドライバタイプの選択を行いません。

—— ドライバの選択 ——

パケットドライバ Ver x.xx
ODI ワークステーションドライバ Ver. x.xx
DOS NDIS ドライバ Ver. x.x

パケットドライバ

PC/TCP のみをご使用になる場合、「パケットドライバ Ver. x.xx」の選択をお勧めします。ODI、NDIS ドライバも選択可能ですが、パケットドライバ (Packet Driver、PD) はメインメモリの常駐量の少なさ、取り扱いのしやすさ、パフォーマンスの点で最適です。

ODI ワークステーションドライバ

「ODI ワークステーションドライバ Ver. xxx」を選択すると、「Isl.com が入っているディスク」が必要です。インストールプログラムの指示にしたがって、Isl.com が含まれているディスクをフロッピードライブに入れてください。

Isl.com は、ODI ドライバを使うときに必要となるプログラムで、ノベル社が販売している NetWare、NetWare Lite のパッケージに含まれています。例えば、NetWare Ver 3.12J の場合は、「WSDOS_1」ディスクの中に含まれています^{†11}。

^{†11} NetWare 3.11J では、「DOSODI」ディスクに含まれています。

DOS NDIS ドライバ

「NDIS ドライバ Ver. xxx」を選択すると、「Unsupported Disk for DOS」が必要となります (FMR シリーズの PC/TCP 以外)。インストールプログラムの指示にしたがって、Unsupported Disk for DOS をフロッピードライブに入れてください。これにより、protman.dos、protman.exe、netbind.exe^{†12} がインストール先ディレクトリにコピーされます。また、「Unsupported Disk」に含まれる内容は、お客様の責任においてご使用ください。

アライドテレシス製ドライバの設定

13. ドライバの設定をイーサネットアダプタの設定に一致させます。イーサネットアダプタの設定を購入時のまま変更していない場合は、「はい」を選択しリターンキーを押してください。また、よく分からない場合は、「はい」を選択し手順 18. に進んでください。

購入時設定のままのボードを使用しますか？	
はい	いいえ

トラブル回避などの理由で、イーサネットアダプタの設定を工場出荷時設定 (デフォルト) から変更した場合、「いいえ」を選択してリターンキーを押し、手順 14. に進んでください。手順 14. ~ 19. は、RE1000 シリーズの場合の例です^{†13}。

14. 手順 13. の問いに対して「いいえ」を選択すると、イーサネットアダプタの設定を PC/TCP に反映させるための画面が表示されます。表示の数値「0」、「00D0」は工場出荷時設定 (デフォルト) を示します。

オプションの選択	
インタラプトレベル : 0	
I/O アドレス : 00D0	
[設定終了]	

^{†12} これらのプログラムは、米国 Microsoft Corporation が著作権をもつものです。

^{†13} ME1500、RE1000Plus シリーズの場合、「I/O アドレス : 00D0」のみとなります。RE2000、RE2000Plus シリーズの場合、数値範囲が異なります。SIC シリーズの場合、メモリアドレスに関する項目が増え、それぞれの数値範囲も異なります。LA-PCI、LA-PCM シリーズ、SIC-EISA-E/STの場合、I/O アドレス、インタラプトなどの設定はありません。

インタラプトレベル

15. 「インタラプトレベル：0」を選択すると、下記の画面が表示されます。ここでは「1」を選択すると仮定します。希望の値を選択し、リターンキーを押してください。手順 14. の「オプションの選択」画面に戻ります。

インタラプトレベル
0
1
2
5

I/O アドレス

16. 「I/O アドレス：00D0」を選択すると、下記の画面が表示されます。ここでは「01D0」を選択すると仮定します。イーサネットアダプタに設定した I/O アドレスの値を選択し、リターンキーを押してください。手順 14. の「オプションの選択」画面に戻ります。希望するアドレスが表示されていない場合、カーソルキー「↑」、「↓」により表示をスクロールさせてください。

I/O アドレス
00D0
01D0
00D2
01D2
00D4
01D4
00D6
01D6
00D8
01D8
00DA
01DA
00DC

17. 「設定終了」を選択しリターンキーを押すと、手順 18. に進みます。

オプションの選択 インタラプトレベル : 1 I/O アドレス : 01D0 [設定終了]
--

ハードウェア診断

18. イーサネットアダプタのハードウェア診断試験を実行します。下記の問いに対して、「はい」を選択しリターンキーを押してください。

ハードウェアの診断を行ないますか？
<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

下記のメッセージが表示されれば、試験は正常に終了したことを示し、手順 19. に進みます。

下記以外のメッセージは、診断試験がエラーを返したことを示し、リターンキーを押すことにより、インストールが中断されて DOS に戻ります。エラーの対処方法については、第 2.12 節「インストールのエラー回避」をご覧ください。

診断は正常に終了しました 何かキーを押してください .

19. 現在フロッピドライブに挿入されているドライバディスクを PC/TCP Setup Disk #1 に交換し、リターンキーを押してください。下記では、フロッピドライブを B: と仮定しています (PC-98)。手順 21. に進みます。

フロッピーディスクを交換してください。 PC/TCP SetUp Disk #1 を B: ドライブにいれてください。 何かキーを押してください。

インストール済みドライバの所在

20. ドライバタイプの選択を行ないます。下記の中から、既にインストールされているドライバを選択してください。

ドライバタイプの選択をして下さい。

パケットドライバ
ODI ワークステーションドライバ
DOS NDIS ドライバ

パケットドライバ

既に、パケットドライバがインストールされている場合に選択してください。

ODI ワークステーションドライバ

既に、NetWare、NetWare Lite などをご使用になっており、ODI ワークステーションドライバがインストールされている場合に選択してください。これを選択すると、下記の入力画面が表示されます。ODI ワークステーションドライバの設定ファイル net.cfg の所在を入力してください。下記では、A:¥NWCLIENT と仮定します^{†14}。

lsl.com、net.cfg がインストールされているパスを指定して下さい。

A:¥NWCLIENT

^{†14} ¥NWCLIENT は、NetWare 3.12J におけるデフォルトのディレクトリ名です。

DOS NDIS ドライバ

既に、LAN Manager などをご使用になっており、NDIS ドライバがインストールされている場合に選択してください。これを選択すると、下記の入力画面が表示されます。NDIS ドライバの設定ファイル protocol.ini が存在するディレクトリ名を入力してください。下記では、A:¥LANMAN.DOS と仮定します。

protocol.ini がインストールされているディレクトリを指定して下さい。
A:¥LANMAN.DOS

シリアル番号 (S/N)

21. シリアル番号を入力してください。シリアル番号は、PC/TCPパッケージの中にシールとして添付されている「1234-5678-9012」のような番号です。バージョンアップの場合も必ず、PC/TCP Ver6.0 のパッケージに添付されている番号を入力してください。

シリアル番号を入力して下さい。
1234-5678-9012

マルチユーザパックの場合、ユーザ数分のシール(シリアル番号)が添付されておりますので、1つのシリアル番号は、1台のパソコンにのみインストールしてください。同時に複数のシングルユーザパッケージをインストールする場合も同様です。

同一のシリアル番号を複数のパソコンで使用すると、PC/TCPインストール後、パソコンの運用中にネットワーク・コピープロテクション機能が働き、『シリアル番号が重複している』という意味のメッセージが表示されます。

認証番号 (A/K)

22. 認証番号を入力してください。認証番号はシリアル番号と対になっており、シリアル番号が正しいことを証明する「鍵」です。認証番号もシリアル番号と同様の形式となっており、シリアル番号のシールに併記されています。

認証番号を入力して下さい。
3456-7890-1234

パソコンのホスト名

23. 現在インストールしているパソコンのホスト名を入力してください。ホスト名は、ホスト^{†15}に付ける親しみやすい名前です。ホスト名として、英数字、アルファベットが使用でき、大文字、小文字は別の文字として区別されます。ここでは spankfire と仮定します。

パソコンのホスト名を入力して下さい。
spankfire

UNIXの慣習として、小文字を使用するのが一般的のようです。ただし、接続するネットワークで既に使用されているホスト名を付けることはできません。pc98、ibmpc、fmr などのようなコンピュータの型名をそのまま使用することもできますが、同じ型のコンピュータがネットワークに接続する可能性を考えるとあまり勧められません。できるかぎり、「あの名前はあのコンピュータだったなあ」と思い出せるような名前を付けましょう。

^{†15} TCP/IPでは、TCP/IPプロトコルをサポートしているコンピュータのことを「ホスト」や「ホストマシン」と言います。したがって、UNIXワークステーションやメインフレームだけでなく、CentreNET PC/TCPをインストールしたパソコンも「ホスト」です。このホスト名は、ご利用になるリモートホストの hosts ファイルに登録しなければなりません。第2.3節「リモートホストの設定」をご覧ください。

パソコンの IP アドレス

24. 現在インストールしているパソコンの IP アドレスを入力してください^{†16}。ここでは 192.168.1.17 と仮定します (このアドレスは、クラス C です)。User's Guide Manual 付録 A.1 に IP アドレスの付け方に関する情報があります。

IP アドレスを入力して下さい。
192.168.1.17

ユーザ名

25. ユーザ名を入力してください^{†17}。ここでは emi と仮定します。

ユーザ名を入力して下さい。
emi

ゲートウェイアドレス

26. ゲートウェイアドレスを入力してください。IP ルータを介して他のネットワークのホストと通信する場合や、ネットワークがサブネットに分割されており、他のサブネットと IP ルータを介して通信する場合に設定します。ゲートウェイアドレスの入力が必要ない場合は、リターンキーのみを押してください。ここでは、ゲートウェイアドレスとして、192.168.1.200 と仮定します。User's Guide Manual 付録 A.1 にゲートウェイに関する情報があります。

ゲートウェイアドレスを入力して下さい。
192.168.1.200

^{†16} この IP アドレスは、手順 23. のホスト名と共に、ご利用になるリモートホストの hosts ファイルに登録されていなければなりません。第2.3節「リモートホストの設定」をご覧ください。

サブネットマスク

27. サブネットマスクビット数を入力してください。ここでは「0」と仮定します (サブネットを設定しない)。User's Guide Manual 付録 A.1 にサブネットマスクに関する情報があります。

サブネットマスクビット数を入力してください。
0

拡張設定

28. 拡張設定を行ないます。「はい」を選択した場合、手順 29. に進みます。「いいえ」を選択した場合は、手順 38. に進みます。

拡張設定を行ないますか？
<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

29. 下記のメニュー画面が表示されます。カーソルキーを使用して、設定したい項目 (白黒反転している項目) を選択し、リターンキーを押すことにより、各項目を設定するための画面が表示されます (30. ~ 33.)。必要に応じて、各項目を選択し、設定してください。設定が確定すると、[] の中に表示されます。必要な項目の設定が終了したら、「終了」を選択し、リターンキーを押してください。手順 34. に進みます。

[拡張設定情報]	
ドメインネームサーバ..	[]
ドメインネーム	[]
LPRサーバアドレス..	[]
ホスト漢字コード	[EUC]
終 了	

^{†17} ユーザ名は、ご利用になるリモートホストに登録されていなければなりません。第2.3 節「リモートホストの設定」をご覧ください。

30. お客様のネットワークでドメインネームサーバが稼働している場合、ドメインネームサーバの IP アドレスを設定してください。ドメインネームサーバは、通信相手をホスト名で指定したとき、そのホスト名の IP アドレスを教えてくれるサーバです^{†18}。ここでは 192.168.1.100 と仮定します。

ドメインネームサーバを入力してください。
192.168.1.100

ドメインネーム

31. ドメインネームを設定してください。ドメインネームは、お客様ネットワークを総称する名前です。ここでは、allied-telesis.co.jp と仮定します。

ドメインネームを入力してください。
allied-telesis.co.jp

LPR サーバアドレス

32. お客様のネットワークで LPR サーバが稼働している場合、LPR サーバアドレスを設定してください。LPR サーバは、PC/TCP パッケージに含まれる lpr.exe によってプリントアウトするためのリモートプリンタです。ここでは、192.168.1.100 と仮定します。

L P Rサーバの IP アドレスを入力してください。
192.168.1.100

^{†18} PC/TCP には、パソコンに置かれた hosts ファイルの情報をもとにホスト名と IP アドレスの対応を求める機能があります。通常は、この機能を使用しますが、ドメインネームサーバをネットワーク上で稼働させておくと、ホスト名、IP アドレスの変更があったとき、ドメインネームサーバのデータベースを更新するだけで済むというメリットがあります。

表示漢字コード

33. リモートホスト (UNIXワークステーション) が表示に使用している漢字コードを指定します。ここで指定した漢字コードが、PC/TCP の仮想端末 (vtn.exe など) で使用されます。デフォルトは EUC です。

[漢字コード]
EUC
シフトJIS
JIS
DEC

テスト用ホスト名

34. 下記で、「はい」を選択すると、通信の試験を行なうためのテスト用ホスト名^{†19}とそのIPアドレスを登録します。登録したホスト、IPアドレスは、インストール先ディレクトリの hosts^{†20} という名のファイルにセーブされます。ここで、テスト用のホスト名を登録しておくことでPC/TCPのインストール後の通信試験で、例えば「kiwi」のようなホスト名を指定できます。「いいえ」を選択した場合、手順 38. に進みます。

テスト用ホスト名を登録しますか？
<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

35. 手順 34. で「はい」を選択した場合、下記が表示されます。ホスト名を入力し、リターンキーを押してください。ここでは、kiwi と仮定します。

テストホスト名 (1) を入力してください。
kiwi

^{†19} 今インストールしたパソコンの通信相手。

^{†20} 付録に hosts ファイルに関する情報があります。

36. テストホスト名 (1) の IP アドレスを入力してください。ここでは、192.168.1.100 と仮定します

テストホストの IP アドレスを入力してください。
192.168.1.100

37. 更に、2つ目のテスト用ホスト名を入力してください。ホスト名を入力せず、リターンキーのみを押すと、手順 38. に進みます。

テストホスト名 (2) を入力してください。

38. 下記の問いに対して「はい」と選択すると、config.sys、autoexec.bat、net.cfg (odi ドライバの場合)、protocol.ini (ndis ドライバの場合) が修正されます。既に同名のファイルが存在する場合には、既存のファイルは config.000、autoexec.000 のような名前に改名されて保存されます。手順 10. で「ドライバのインストール状態」で「インストールする」を選択した場合は、net.cfg、procotol.ini は新規に作成されます。

「いいえ」を選択すると、それらのファイルは変更されず、インストール先ディレクトリ (デフォルトでは ¥PCTCP) に、config.pct、autoexec.pct などのサンプルファイルが作成されます。*.pct を参考にして、config.sys などのファイルを編集してください。

PC/TCP を動作させるために必要なファイルを修正してよろしいですか？
<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

39. フロッピーディスク交換を指示するメッセージが表示されます。指示に従い、Kernel Disk #1、Dosapp Disk #1、Dosapp Disk #2、InterDrive Disk #1 (Advanced Kit のみ) を交換してください。

フロッピーディスクを交換してください。
PC/TCP Kernel Disk #1 を B: ドライブに入れてください。
何かキーを押してください。

リターンキーを押すと、下記のメッセージが表示され、必要なファイルがインストール先ディレクトリにコピーされます。

コピー実行中
Kernel DISK1
to
A:¥PCTCP

inet.exe コピー中... 残りファイル数: 7

全てのディスクコピーが終了すると、手順 40. に進みます。

ブートドライブの指定

40. ブートドライブ (パソコンが起動するドライブ)、すなわち autoexec.bat、config.sys が存在するドライブを指定します。通常、ブートドライブは PC-98 では A:、DOS/V では C: となります。ここでは、A: と仮定します。

A: B: C: D: E:

DOS アプリケーションのインストールの結果、すなわち PC/TCP のインストールによって、config.sys、autoexec.bat、pctcp.ini、net.cfg (odi)、protocol.ini (ndis) ファイルがどのように変更 (作成) されるかについては、User's Guide Manual 付録 B をご覧ください。また、エディタを使用し、これらのファイルを編集しなければならない場合も、User's Guide Manual 付録 B をご覧ください。

マルチコンフィグを使うには^{†21}

PC/TCP のインストールプログラムは、config.sys、autoexec.bat の最後に PC/TCP のための記述を追加するため、サードベンダー製のマルチコンフィグユーティリティや、Ver. 6.x (DOS/V) 以上の DOS が持つマルチコンフィグ機能をご使用の場合、PC/TCP インストールプログラムを実行しただけではうまく動作しません。エディタを使用し、config.sys、autoexec.bat に追加された PC/TCP の記述を適切なセクション (位置) に移してください。詳細は、User's Guide Manual 付録 B をご覧ください。

^{†21} マルチコンフィグ機能とは、config.sys、autoexec.bat をセクションで分け、起動時にそれらをファンクションキーなどで選択することによって、組み込まれるデバイスドライバ、常駐型プログラムなどを使い分けられるようにするものです。PC DOS6.x, MS-DOS 6.x 以上でサポートされる機能です。

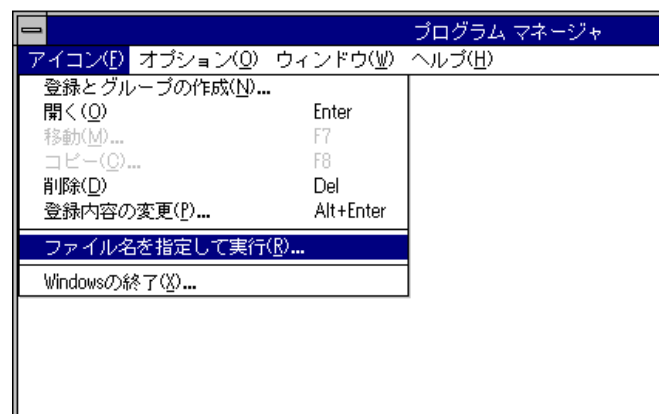
4.2 MS-DOS と Windows3.1 で使用する

最初に「4.1 MS-DOSのみを使用する」の手順にしたがってPC/TCPのDOSコマンドのインストールをします。その次にPC/TCP Windowsアプリケーションのインストールを行ないます。ここでは、インストール対象のパソコンはPC-98シリーズで、起動ドライブをA:、フロッピードライブをB:と仮定します。DOS/Vの場合は、A:をC:、B:をA:に読み変えてください。

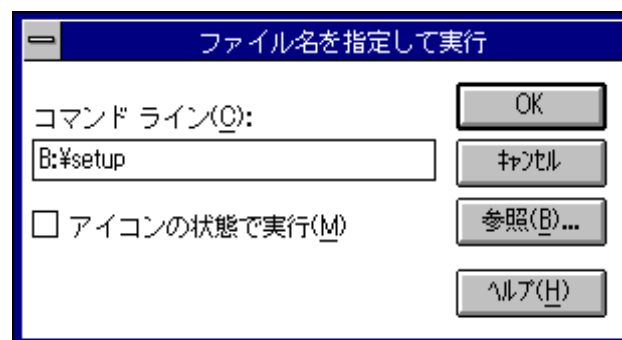
1. Windows を起動します。

```
A:¥>win
```

2. プログラムマネージャの「アイコン(E)」をクリックし、「ファイル名を指定して実行(R) ...」をクリックしてください。手順3.のウインドウ表示されます。



3. フロッピードライブに SetUp Disk #1 を入れ、「コマンドライン (C):」に「B:¥setup」と入力して、「OK」ボタンを押してください。



4. PC/TCP Windows アプリケーションのインストールプログラムが起動し、下記のメッセージが表示されます。インストールを続行するなら「OK」ボタンをクリックしてください。



5. シリアル番号と認証番号を入力してください。シリアル番号は、PC/TCPパッケージの中にシールとして添付されている「1234-5678-9012」のような番号です。認証番号はシリアル番号と対になっており、シリアル番号が正しいことを証明する「鍵」です。認証番号もシリアル番号と同様の形式となっており、シリアル番号のシールに併記されています。

バージョンアップの場合も必ず、PC/TCP Ver6.0 のパッケージに添付されている番号を入力してください。



マルチユーザパックの場合、ユーザ数分のシール(シリアル番号)が添付されておりますので、1つのシリアル番号は、1台のパソコンにのみインストールしてください。同時に複数のシングルユーザパッケージをインストールする場合も同様です。

同一のシリアル番号を複数のパソコンで使用すると、PC/TCPインストール後、パソコンの運用中にネットワーク・コピープロテクション機能が働き、『シリアル番号が重複している』と言う意味のメッセージが表示されます。

6. インストール種別を選択します。DOS のインストールは済んでいるので、「 Windows のみ(DOSインストール済み)」を選択します。



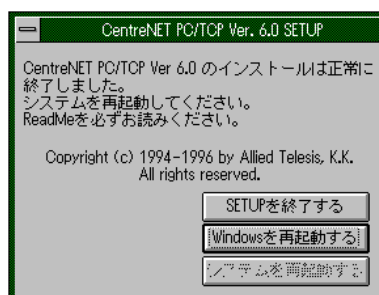
7. 「4.1 MS-DOS のみを使用する」で PC/TCP の DOS アプリケーションをインストールしたディレクトリを指定してください。デフォルトでは、A:¥PCTCP となります。インストールを続行するなら「OK」ボタンをクリックしてください。



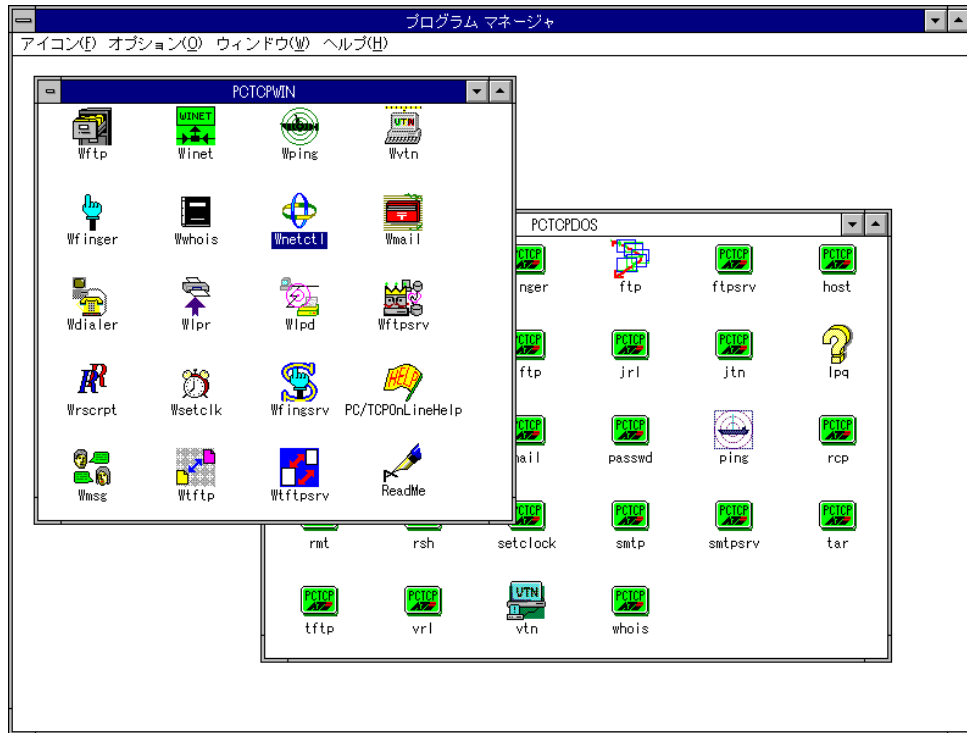
8. PC/TCP のインストール終了後に、ダイアログボックスに表示されている設定ファイルを手作業で編集する場合は、「 変更しない」をクリックしてください。通常、「 変更する」を選択します (前ページの「重要なファイルのバックアップ」を実行していればインストール前の環境に戻せます)。



9. PC/TCP Windows アプリケーションのファイルがコピーされます。画面の指示に従ってください。
10. インストールが終了するとメッセージが表示されます。「Windows を再起動する」ボタンをクリックします。
8. の手順で設定ファイルを変更しなかった場合は、「SETUP を終了する」ボタンをクリックして Windows に戻り、system.ini などの設定ファイルを編集してから再起動してください。



11. 下記に、作成されたグループを示します。



4.3 Windows95 または Windows NT で使用する

Windows95, Windows NT の準備

Windows95, Windows NT におけるデフォルトプロトコルスタックは NetBEUI です。Windows95, Windows NT 上で TCP/IP を使用する場合は Windows95, Windows NT に以下の情報を設定しなければなりません。

- ・パソコンの IP アドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイの IP アドレス
- ・DNS サーバーを使用するかどうか、使用するならそのサーバーの IP アドレス

ここでは、Windows95 上での TCP/IP を設定方法を例に説明します。ただし、各マシンの Windows95 の環境によっては必ずしもこの順番通りにならない場合があります。

ここでは、Windows95 が既にインストールされていて、Microsoft Network が正常に動作しているコンピュータを前提として説明します。

また、設定をしているときに、Windows95 の Disk を求めてくる場合もありますので、その場合は画面の指示に従ってください。

また Windows95 のヘルプやマニュアルを参照してください。^{†22}

†22 以下の文献に詳しい設定手順が記載されています。

アスキー出版局

Microsoft Windows95 リソースキット Vol.1

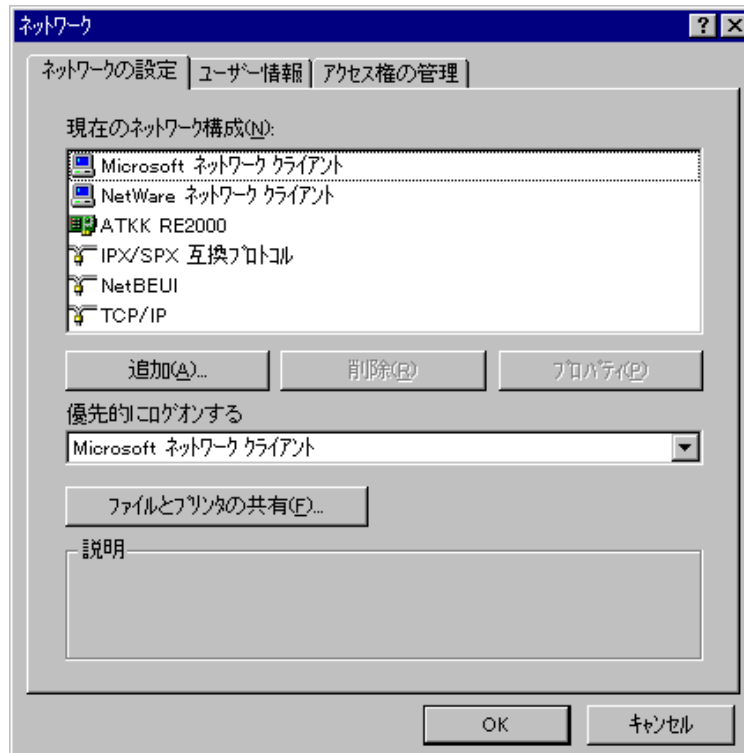
Microsoft Corporation 著 / マイクロソフト株式会社 監修 / アスキーテクライト訳

第 12 章 ネットワークに関する技術的な解説

12.5 TCP/IP プロトコル

TCP/IP のインストール

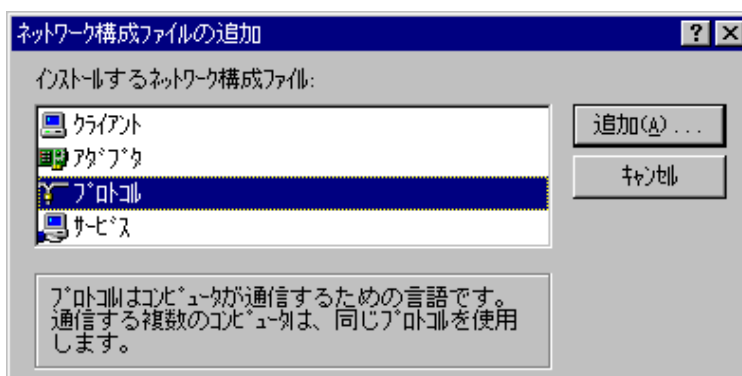
1. Windows95 を起動し、「マイコンピュータ」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワーク」をダブルクリックすると「ネットワーク」ダイアログが表示されます。



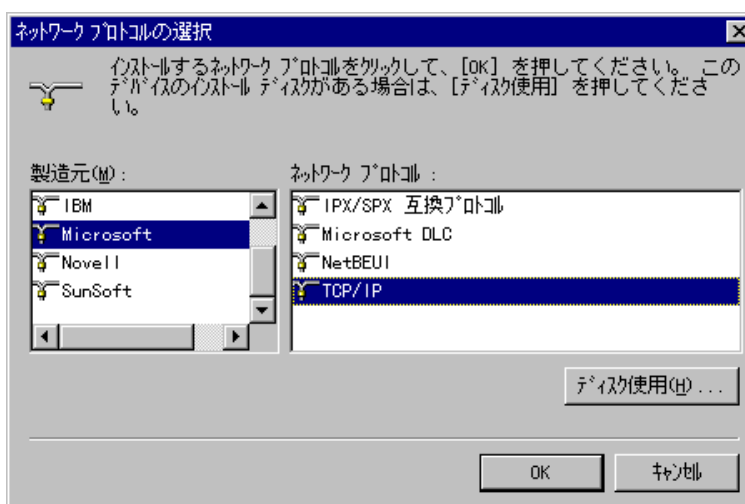
「ネットワークの設定」タブをクリックします。「現在のネットワーク構成」一覧に「TCP/IP」が表示されているか、確認します。表示されていない場合は以下の手順でインストールを行います。

2. 「ネットワークの設定」ページの「追加」ボタンをクリックします。「ネットワーク構成ファイルの追加」ダイアログが表示されます。

3. ダイアログ中の「インストールするネットワーク構成ファイル」一覧から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



4. 「ネットワークプロトコルの選択」ダイアログが表示されます。「製造元」は Microsoft、「ネットワークプロトコル」は TCP/IP を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



5. 「ネットワーク」ダイアログに戻ります。TCP/IP の項目が追加されているので「現在のネットワークの構成」の中から「TCP/IP」をダブルクリックします。

6. 「TCP/IPのプロパティ」ダイアログが表示されます。ここでは以下の項目について設定します。設定が終了したら「OK」ボタンをクリックします。

IP アドレス

このパソコンの IP アドレスを自動的に取得するか、自分で指定するか選びます。

自動的に取得するには DHCP サーバがネットワーク上に動作していることが前提になります。

IP アドレスを指定する場合はこのマシンの IP アドレスとサブネットマスクをネットワーク管理者に確認してください。

WINS 設定

WINS は WindowsNT のネットワークで使用される プロトコルです。WINS の解決をする場合、WindowsNT の WINS Server が必要です。また、解決するのに DHCP を使用することも出来ます。

ゲートウェイ

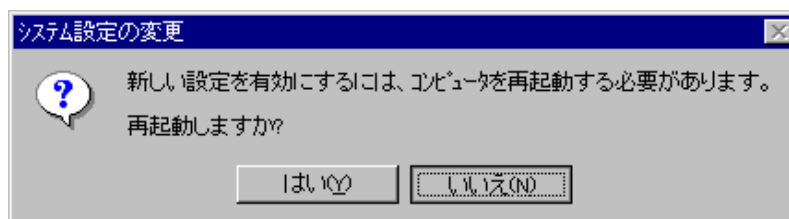
ゲートウェイとは通常そのネットワークのルータをさします。ルータを超える通信を行いたい場合にはルータのアドレスを IP アドレスで指定し、追加してください。

DNS 設定

ドメインネームサービスの指定を行います。使用しない場合は hosts ファイルが使用されます。使用する場合には DNS サーバの IP アドレスを指定し、このマシンのホスト名とドメイン名を設定します。

7. 「TCP/IPのプロパティ」ダイアログを終了させると「TCP/IPのプロパティ」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックし、終了させます。

8. インストールが終了すると「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。」というメッセージが表示されます。全てをインストールしてからリブートしますので、ここでは「いいえ」ボタンをクリックします。



TCP/IPの動作確認

PC/TCPのWindows95アプリケーションを使用するためには、Windows95のTCP/IPが正しく動作していなければなりません。TCP/IPの動作は、Windows95に含まれているpingコマンドによって確認できます。

1. 「スタート」「プログラム」「MS-DOSプロンプト」を実行してください。
2. MS-DOSプロンプトウィンドウでpingを実行します。pingの後には、引数としてホスト名またはIPアドレスを指定してください。

<書式>

```
ping hostname  
ping IP-address
```

<コマンド例>

```
C:¥>ping kiwi.abcdefg.co.jp  
C:¥>ping 150.87.24.1
```

3. 下の例のように、リモートホストからの応答時間が表示されれば正しく動作しています。下の例のように表示されず、エラーメッセージが表示される場合は、Windows95のTCP/IP設定が間違っている可能性があります。Windows95のマニュアルをご覧になり、設定を確認してください。

<pingの正しい表示例>

```
Pinging hostname.domain_name [128.13.14.15] with 32 bytes of data:  
  
Reply from 150.87.21.8: bytes=32 time=2ms TTL=254  
Reply from 150.87.21.8: bytes=32 time=2ms TTL=254  
Reply from 150.87.21.8: bytes=32 time=1ms TTL=254  
Reply from 150.87.21.8: bytes=32 time=2ms TTL=254
```

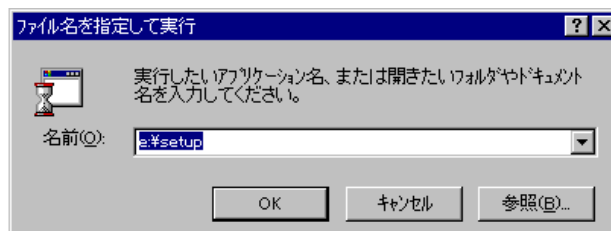
インストール

1. フロッピードライブ（ここではEドライブとします。）に SetUp Disk #1 を入れ、Windows95 の場合は「スタート」で「ファイル名を指定して実行」を選択します。

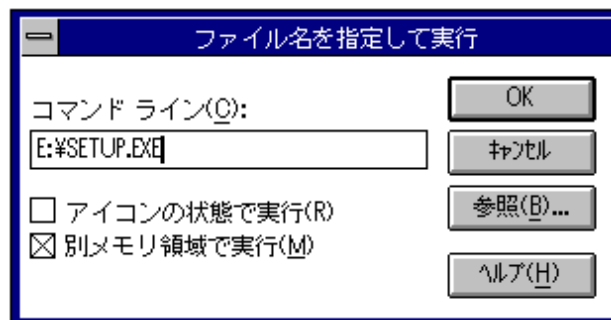
Windows NT の場合はプログラマナーの「アイコン」-「ファイル名を指定して実行」を選択します。

「ファイル名を指定して実行」ダイアログが表示されますので、「E:¥setup」と入力して、「OK」ボタンを押してください。

Windows95 の場合



WindowsNT の場合



2. 「4.2 MS-DOS と Windows3.1 で使用する」の 5. の手順と同様にシリアル番号と認証番号を入力します。

- 次にインストール種別を選択します。「 Windows95, NT (Winsock 対応のみ)」を選択します。



- あとはインストーラの画面に表示される指示に従ってください。

5. Windows95, Windows NT 上で使用する際のご注意

- 本製品を Windows95, Windows NT へインストールすると、以下の Winsock 対応アプリケーションのみがインストールされ、ネットワーク機能はインストールされません。
ネットワーク機能は Windows95, Windows NT に標準添付されている機能を使用します。ネットワーク機能の各種設定方法(IP address, ドメイン名など)は Windows95, Windows NT のマニュアルをご覧ください。
接続確認をしてください。
- 本製品の Winsock 対応アプリケーションは、

Wvtn, Wftp, Wftpsrv, Wmail, Wfinger, Wfngsrv, Wlpd, Wlpr, Wrscrip,
Wsetclk, Wtftpsrv, Wtftp, Wmsg, Wwhois

です。使用方法は、User's Guide Manual をお読みください。
- 各アプリケーションは、Windows95, Windows NT のロングファイル名には対応していません。また、UNC 名(¥サーバー名¥シェア名)も対応していません。
例えば、Wftp などのファイル転送コマンドでローカル側(パソコン側)の送受信ファイルにロングファイル名は使用できません。

4. 本製品の Winsock 対応アプリケーションは 16 ビットアプリケーションですので、Windows95, Windows NT 専用の 32 ビットアプリケーションとの間でのデータのやりとり (DDE やドラッグ&ドロップ, 及び32 ビットアプリケーションとの連動) が正常に動作しないことがあります。

6. 弊社 SIC シリーズ使用時の注意点

弊社の SIC シリーズイーサネットアダプタは、シェアードメモリ方式であるためパソコンのメモリ空間を使用します。メモリコンフリクト (重複) を回避するために、¥windows¥system.ini の [386Enh] セクションに EMMExclude の記述を追加しなければなりません。

<例>

```
EMMExclude = d800-dbff
```

7. Ver.3x 以前からのバージョンアップ

PC/TCP Ver. 3.x 以前のものをご使用になっており、今回 Ver. 6.0 にバージョンアップされるお客様は、インストールコースで、「新規...標準構成」を選択してください。

また、Ver. 3.x 以前のは、config.sys に ifcust.sys、ipcust.sys の記述がありますが、Ver. 6.0 をインストールした後、これらの記述は削除してください。Ver. 4.0 以上では、ifcust.sys、ipcust.sys に設定する情報は、pctcp.ini ファイルに記述します。これらに関する詳細は、Command Reference Manual 付録A「3.x 以前のバージョンとの互換性」をご覧ください。

8. X-Server98/AXの環境

PC/TCP Ver. 6.0 のもとで弊社の CentreNET X-Server98、X-ServerAX をご使用になるお客様は、ifcust.sys、ipcust.sys を config.sys に記述してください。X-Server は、これらの機能を必要とします。ifcust.sys、ipcust.sys に対する設定操作は、ifconfig、ipconfig コマンドを使用してください。これらに関する詳細は、Command Reference Manual 付録A「3.x 以前のバージョンとの互換性」をご覧ください。

9. ダイアルアップPPPのインストール

PC/TCP は、ダイアルアップ PPP を使用し、インターネットに接続することができます。この節では、インターネットに接続するためのダイアルアップ PPP のインストール手順について説明します。ここでは、フロッピードライブを A:、インストール先を C: と仮定します (DOS/V)。PC-98 の場合は、A: を B:、C: を A: に読み変えてください。インストーラのキー操作方法については、「6. インストールプログラムの操作方法」をご覧ください。また、インストールによって作成される設定ファイル、スクリプトファイル (インストール結果) については、付録 D をご覧ください。

準備

- ・ インターネットプロバイダと契約し、インターネット接続に必要なとなる情報を入手してください。
- ・ モデム ^{†23}、ストレートの RS232 ケーブル、電話回線を用意し、パソコンに接続してください。
- ・ 特に、PC-98 シリーズの場合、RSDRV.SYS などの RS232 ドライバは外してください。インストール前や、運用中に SWITCH.EXE などで RS232 ポートの初期化を行わないでください。

DOS アプリケーションのインストール

1. 下記のコマンドを入力し、インストーラを起動してください。

```
C:¥>A:
```

```
A:¥>install internet
```

2. インストーラが行う下記の問いに答えてください ^{†24}。

- ・ インストール種別
- ・ インストール先ディレクトリを指定してください。
- ・ 回線速度
19200bps、9600bps、4800bps、2400bps からひとつを選択してください。
- ・ シリアル番号、認証番号
PC/TCP に添付されているシリアル番号、認証番号を入力してください。

- ・パソコンのホスト名を入力してください。
- ・ユーザ名を入力してください。
- ・使用するモデムの選択 (for PC-98 パッケージのみ：通常のモデム、PCMCIA カード型モデム)
- ・MS-DOS 用接続設定ファイルの作成 (作成しない、作成する) †25
インターネットへのアクセスはWindows からのみ行うという方は「作成しない」を選択してください。DOS と Windows の両方の環境からインターネットへアクセスする方は「作成する」を選択してください。

3. 手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成する」ように指示した場合、引き続き、PPP 接続設定情報から下記の項目を入力します。必要な項目を入力し、「終了」を選択してください。

- ・ゲートウェイアドレス
- ・ドメインネームサーバ
- ・ドメインネーム
- ・ホスト漢字コード
- ・コネクション ID
- ・パスワード
- ・電話番号

「コネクション ID」、「パスワード」はプロバイダとダイアルアップ PPP 接続を開始するときの認証として使用されるもので (これらはインストールのときに設定してしまえば、あとは目にふれることはありません)、お客様が契約しているプロバイダから与えられるものです。一般的に、これらの2つと TELNET などログインするときに入力するユーザ名 (手順 (2) で設定したもの)、パスワードは異なるものです。

4. autoexec.bat を修正してもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。よければ「はい」を選択してください。

†23 モデムは AT コマンド準拠の非同期モデムや TA をご使用ください。

†24 ESC キーを押すことにより、入力してしまった項目を取り消したり、インストールを中断することができます。

†25 本節末の「運用上のヒント」をご覧ください。

5. インストール先ディレクトリに PPP ドライバ、TCP/IP カーネル、DOS アプリケーションがコピーされ、入力した項目が反映された設定ファイルが作成されます。設定ファイル(インストール結果)については、User' Guide Manual 付録 D をご覧ください。

Windows アプリケーションのインストール

6. 引き続き、Windows アプリケーションのインストールを実行します。「7.2 MS-DOS と Windows3.1 で使用する」に従ってインストールを実行してください。
7. 必要であれば、更に Netscape Navigator ^{†26} をインストールしてください。手順は、別冊子「Netscape Navigator インストールについて」をご覧ください。

パソコンのリセット

8. Windows を終了させてから、パソコンをリセットしてください。リセットにより、インストールによって施された設定が有効になります。手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成しない」ように指示した場合、手順 (9) に進んでください。
手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成する」ように指示した場合、手順 (14) に進んでください。

ダイヤルアップ PPP で接続 (WDIALER)

9. Windows を起動してください。

A: ¥>WIN

10. プロバイダとのセッションリンクを確立します。PCTCPWIN グループの WDIALER アイコンをクリックしてください。WDIALER の使用方法については、User's Guide Manual の第 7.12 節をご覧ください。

^{†26} WWW ブラウザー。Windows 環境からより簡単にインターネットへアクセスするためのツールです。約 1.5MB のディスク容量を消費します。

^{†27} UP コマンドで接続した場合、Windows 環境における接続、切断コマンド WDIALER は使用できません。UP は、Windows の DOS プロンプト (窓) から実行することはできません。
本節末の「運用上のヒント」をご覧ください。

通信試験

11. wping を使用し、通信試験を行います。PCTCPWIN グループの WPING アイコンをダブルクリックして起動し、「ホスト名 or アドレス」の欄に「試験の対象となるホスト名または IP アドレス」を入力してください。開始ボタンを押すことによって、ping が実行されます。wping が表示するメッセージについては、User's Guide Manual 第 2.2 節「ping で試験する」または HELP をご覧ください。

運用

12. 通信試験に成功したら、wftp, wvtn, wfinger, Netscape Navigator などのアプリケーションを使用し、インターネットにアクセスすることができます。

切断

13. インターネットへのアクセスを行うアプリケーションを終了させ、WDIALER のコマンド「切断」を選択してください。インターネットへのアクセスが終了したら、必ずプロバイダとのセッションリンクを切断してください。接続したままにしておくと、電話料金、プロバイダの使用料金が課金されたままとなります。

DOS 環境における接続

14. 手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成する」ように指示した場合、DOS、Windows の両方の環境からインターネットへのアクセスを行うことができます。

下記のコマンドを入力してください。インストール時に指定したプロバイダに接続されます^{†27}。

A:UP

DOS 環境における試験

15. ping を使用し、通信試験を行います。ping が表示するメッセージについては、User's Guide Manual 第2.2 節「ping で試験する」または Command Reference Manual をご覧ください。

A:¥>ping 試験の対象となるホスト名

または

A:¥>ping 試験の対象となるホストの IP アドレス

DOS 環境における運用

16. 通信試験に成功したら、DOS のプロンプトから ftp、TELNET (vtn) などのコマンドを使用し、インターネットにアクセスすることができます。

A:¥>ftp ホスト名

A:¥>vtn ログインしたいホスト名

17. DOS 環境でインターネットに接続しておき、Windows を起動すれば、Windows アプリケーション、例えば wftp, wvtn, Netscape Navigator などを使用して、インターネットにアクセスすることができます。ご使用になっているパソコンが PC-98 シリーズの場合、PC/TCP Windows アプリケーションを実行する前に、Windows のファイルマネージャなどを使用して、「wtermup.exe」を実行してください^{†28}。このコマンドは、RS232 ポートの初期化を行うコマンドで、PC/TCP のインストール先ディレクトリに存在します (デフォルトでは ¥pctcp)。

DOS 環境における切断

18. Windows を実行している場合は、Windows を終了させ、DOS プロンプトから DOWN コマンドを入力してください。回線を切断するスクリプトが実行されます^{†29}。

C:¥>down

ダイヤルアップ PPP の運用上のヒント

手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成する」ように指示した場合、以下の運用形態がとれます。

1. DOS プロンプトから UP を実行してプロバイダに接続し、PC/TCP DOS アプリケーションを使用できます (DOS 環境でインターネットを使用する場合は、UP、DOWN コマンドを使用しなければなりません)。

2. DOS コマンドの UP によりプロバイダに接続し、Windows を起動してから、PC/TCP Windows アプリケーションを使用できます。ただし、プロバイダからの切断は、一旦 Windows を終了して、DOS プロンプトから DOWN コマンドを実行しなければなりません。このことは、Windows 環境ではやや不便です。
3. DOS プロンプトから UP を実行せず、Windows で WDIALER を実行してプロバイダに接続し、PC/TCP Windows アプリケーションを使用できます。WDIALER は、Windows のなかからプロバイダとの接続、切断ができるため、Windows 環境では非常に便利です。

手順 (2) で「MS-DOS 用接続設定ファイルを作成しない」ように指示した場合、以下の運用形態がとれます。

1. Windows で WDIALER を実行してプロバイダに接続し、PC/TCP Windows アプリケーションを使用します。切断も Windows のなかからできます。但し、DOS コマンドの UP、DOWN は使用できません^{†30}。

PC-98 MATE シリーズにおけるトラブル回避

PC-98 MATE シリーズにおいて、Windows 上でシリアルドライバ (PPP、SLIP) を使用しているとき、通信が途切れるような現象が発生した場合は、¥windows¥system.ini の [386Enh] セクションに下記の記述を追加し、Windows を再起動してください (この記述は、Windows の RS-232 管理機能を無効にします。このため PC/TCP のアプリケーション以外の Windows アプリケーションからの通信は行えなくなります)。

```
[ 386Enh ]
COM1BASE=-1
```

^{†28} WDIALER によってインターネットに接続した場合は、wtermup.exe を実行しないでください。WDIALER は、自分自身で RS232 ポートを初期化します (wtermup.exe は、UP コマンドに対して適用するコマンドです)。

wtermup.exe は、RS232 ポートを初期化するときに、DTR 信号を落とすため、あらかじめモデムが DTR 信号を無視するように設定されていなければなりません。モデムが DTR 信号を認識するように設定されている場合、wtermup の実行により、up コマンドで接続されている PPP のセッションリンクが切断されてしまいます。

^{†29} DOS のコマンド UP によってプロバイダと接続した場合は、DOS コマンドの DOWN で切断しなければなりません。WDIALER で切断したり、再接続することはできません。また、DOWN は Windows の DOS プロンプト (窓) から実行することはできません。

10. インストールのエラー回避 (イーサネット)

この節では、イーサネット (LAN 環境) におけるインストールコマンド install、install english の実行中に起こる障害を回避する方法について説明します。

ディスク容量不足

指定されたディスクは、PC/TCP を動作させるために必要な空容量がありません。別のディスク / ディレクトリを選択してください。

何かキーを押してください。

インストール先のディスクの空き容量が不足しています。空き容量が充分にある別のディスクを指定するか、インストールを中断し、不要なファイルを削除して、再度インストールコマンドを実行してください。

PC/TCP の再インストール (新規..) や PC/TCP Ver. 4.x, 5.x からのバージョンアップにおいて、ディスク容量不足になった場合は、PC/TCP のインストール先ディレクトリ (デフォルトは ¥PCTCP) の内容を削除した後、インストールを行なってください。

PC/TCP のバージョンアップにおいて、ディスク容量不足になった場合は、PC/TCP のインストール先ディレクトリ (デフォルトは ¥PCTCP) の内容のうち設定ファイル (* .ini, hosts, * .scp, * .scr, * .ppp, * .inf) を残し、他のファイルを削除した後、バージョンアップを行なってください。

^{†30} 手作業によって、UP、DOWN コマンドを使用できるようにすること (これらのための設定ファイルを作成すること) は可能です。

シリアル、認証番号が不正になる

アンチウイルスチェッカー (アンチビールスチェッカー) を常駐させている場合、シリアル番号、認証番号の組み合わせは正しいにもかかわらず、それらの文字入力がうまくできないことがあります。その場合は、アンチビールスチェッカーをメモリから解放した後、再度インストールプログラムを実行してください。

ハードウェア診断試験が表示するエラー

RE1000、ME1500、RE2000 シリーズ、SIC-98-E/ET、SIC-98NOTE-T、SIC-AT-E/ET などを使用する場合、ハードウェア診断試験が表示するエラーメッセージ、原因と対策について説明します。

ハードウェア診断においてエラーが発生しました。
終了します。

何かキーを押してください。

シェアードメモリアドレスの設定が誤っているか
またはハードウェアエラーが発生しました。

何かキーを押してください。

ループバックエラーが発生しました。

ケーブルが正しく接続されていません。
接続を確認してください。

何かキーを押してください。

イーサネットアダプタがネットワークに正しく接続されていない、10BASE2-10BASE5 切り替えスイッチが正しく設定されていないなどの原因が考えられます。

上記のメッセージに対し、リターンキーなどのキーを押すことにより、インストールが中断し、DOSに戻ります。イーサネットアダプタのハードウェア設定、ネットワークへの接続状態を確認し、再度インストールプログラムを起動してください。

I/O アドレスが間違っています。

何かキーを押してください。

RE、MEシリーズのみが表示するエラーメッセージです。上記のメッセージに対し、上記のメッセージに対し、リターンキーなどのキーを押すことにより、設定画面に戻ります。

インストールプログラムで指定した I/O アドレスの値がイーサネットアダプタと一致していません。イーサネットアダプタの設定を確認し、再度インストールコマンドを実行してください。

または、お客様が希望している I/O アドレスは、既に他の拡張アダプタ(ボード)やパソコン自身によって使用されています。未使用のメモリーアドレスに変更して、再度インストールコマンドを実行してください。

I/O アドレスまたはシェアードメモリアドレスの設定が誤っています。
設定画面に戻ります。

何かキーを押してください。

SIC シリーズのみが表示するエラーメッセージです。上記のメッセージに対し、リターンキーなどのキーを押すことにより、設定画面に戻ります。

インストールプログラムで指定した I/O アドレス、メモリーアドレス、メモリーサイズの値がイーサネットアダプタと一致していません。イーサネットアダプタの設定を確認し、再度インストールコマンドを実行してください。

または、お客様が希望している I/O アドレス、メモリアドレスは、既に他の拡張アダプタ (ボード) やパソコン自身によって使用されています。未使用のメモリアドレスに変更して、再度インストールコマンドを実行してください。

シェアードメモリアドレスの設定が誤っています。
設定画面に戻ります。

何かキーを押してください。

SIC シリーズのみが表示するエラーメッセージです。上記のメッセージに対し、リターンキーを押すことにより、インストールプログラムから抜けます。

インストールプログラムで指定したメモリアドレス、メモリーサイズの値がイーサネットアダプタと一致していません。イーサネットアダプタの設定を確認し、再度インストールコマンドを実行してください。

または、お客様が希望しているメモリアドレスは、既に他の拡張アダプタ (ボード) やパソコン自身によって使用されています。未使用のメモリアドレスに変更して、再度インストールコマンドを実行してください。

Windows を起動すると表示するエラー

PC/TCP Kernel version incompatible with vpctcp.
Network functions will not operate.
Hit any key to continue.

既に PC/TCP Ver4.x, Ver5.x をインストールされている状態で、PC/TCP Ver6.0 の DOS インストールのみを行った場合に、Kernel のバージョンと Windows の設定ファイルのバージョンが不一致になるため起こるエラーです。このエラーが出た場合は、何かキーを押して Windows を起動後に PC/TCP Ver6.0 Windows インストールを行ってください。

11. pctcp.ini エディタ (confe)

confe.exe は、PC/TCP の設定ファイル pctcp.ini ファイルを編集するためのエディタです。メニュー形式となっており、カーソルキー、リターンキー、ESC キーで操作ができます。この章では、操作の方法について説明します。各項目が取る値 (パラメータ) については、Command Reference Manual または confe が表示するヘルプメッセージをご覧ください。

起動

下記のコマンドを入力し、confe を起動します。confe は、引数をとりません。

```
A: ¥>confe
```

メインメニュー

confe が起動すると、下記のようなセクション選択メニューが表示されます。各項目は、pctcp.ini ファイルの各セクション名に対応します。pctcp.ini の中でセクション名は、大括弧 [] でくくられており、セクションの先頭に記述されています。

セクション選択メニュー

```
general
ifcust 0
kernel
terminal
terminal host_name
vtn
vrl
```

パラメータ選択メニュー

カーソルキー「`↑`」「`↓`」を使用して、白黒反転している部分(ポインタ)を移動させることができます。カーソルキーを押し続けると、メニューはスクロールします。ポインタで項目を選択し、リターンキーを押すと、選択した項目に関するパラメータ選択メニューが現れます。例えば、vtn を選択すると下記が現れます。

パラメータ選択メニュー

```
pc =  
kb =  
host =  
bitmap =  
echomode =  
datalen =  
kanji =
```

値の設定

パラメータ選択メニューから項目を選択しリターンキーを押すと、文字や数値を入力する画面、または新たなメニュー画面が表示されます。例えば、上記で「host =」を選択すると、下記の入力画面が表示されます。

```
host name  
silvie
```

また、上記で「kb =」を選択すると、下記のメニューが表示されます。

```
KeyBoard type  
84  
101  
don't care (default)
```

入力画面からの文字入力、メニュー画面での項目選択を行なうと、これらの画面は自動的に閉じます。

パラメータ選択メニューを閉じる

パラメータ設定メニューで必要な項目の設定が終わったら、ESC キーを押してください。

confe の終了

カーソルキー「`<`」を押し続けると、「セクション選択メニュー」の最下位に「強制終了」、「セーブ&強制終了」が表示されます。施した設定を pctcp.ini ファイルに保存する場合は「セーブ&終了」、保存しない場合は「強制終了」を選択してください。

12. Unsupported Disk について

Unsupported Disk for DOS/UNIX、Unsupported Disk for Windowsには、PC/TCP と組み合わせて使用すると便利なフリーウェアなどのソフトウェアが含まれていません。Unsupported Disk に含まれるものは、弊社のユーザサポートの対象になりません。**Unsupported Disk に含まれるものは、お客様の責任においてご使用ください。**

13. pcnfsd のコンパイル、インストール

pcnfsd のコンパイルの方法、PC-NFS サーバの設定の仕方は、Unsupported Disk for DOS/UNIX に含まれる readme.txt、examples.txt ファイルをお読みください。

14. PPP機能PCMCIAモデムカード使用方法 (PC98/DOS版)

ここでは、PC98版、DOS版においてPCMCIAモデムカードを使用してPPP機能を動作させる方法を説明します。

- (1) NotePCにカードサービス/ソケットサービスがインストールされていることを確認します。以下にPC98Noteの場合の確認方法例を示します。

- a) config.sysに次のデバイスドライバが登録されていることを確認します。

```
DEVICE=A:\DOS\SSDRV.SYS  
DEVICE=A:\DOS\CS.EXE
```

- b) カードサービス/ソケットサービスがインストールされているとPC起動時に以下のようなメッセージが表示されます。

```
Socket Service Version 2.10  
Copyright (C) 1994 NEC Corporation
```

ソケットサービスが使用可能です。

```
SystemSoft Card Services 2.1 Version 2.07 (2190-10)  
Copyright 1993-1994 SystemSoft Corporation. All Rights Reserved.
```

- (2) PCの電源を切りPCMCIAモデムカードを実装し再びPCの電源をONにします。PCMCIAモデムカードは、カードサービスによって自動認識されます。モデムカードに割り当てられた資源(I/O,IRQ)を確認してください。

PC98Noteの場合の確認方法例を示します。cardinfo.exeに/vオプションを付けて実行します。

```
DOS>cardinfo /v
```

実行結果として、以下のような結果が表示されます。

クライアント情報 : handle AFF8:
クライアントのレビジョン=1.03
C Sサポートレベル=2.1
レビジョン日付=94-01-06
クライアント名="CardID"
ベンダ名="SystemSoft Corporation"

スロット0:

[カード情報]

カード種別="Modem"

メーカー名="XXXXX"

製品名="YYYYY"

[設定情報]

クライアント・ハンドル : AFF8

メモリ + I / O インターフェース, Vcc 50, Vpp1 50, Vpp2 50

設定レジスタのベースアドレス 0100, 設定値:

オプションの値: 60

ステータスの値: 08

I / O レンジ 0D0-0D7, 8-ビット, カードポート 3F8

アサインされた I R Q : 5 (イネーブル)

スロット1:

カードが挿入されていません。

この表示中の「I / O レンジ」、「アサインされた I R Q」の値をメモしておきます。

I / O レンジ = 0D0-0D7

アサインされた I R Q = 5

- (3) PC98においてPC/TCP Internetインストール時 (INSTALL INTERNET実行時)、使用するモデムで「PCMCIAカード型モデム」を選択すると、I/Oアドレス、IRQ番号の入力メニューがありますので、(2)でメモした値を選択してください。(2)の例の場合I/Oアドレス0xD0、IRQ番号5を選択します。この結果は、autoexec.batに

```
pppnote -a 0xd0 -i 5 -b 9600
```

というように、pppnoteのオプションとして設定されます。なお、AT互換機の場合は、インストール終了後autoexec.batを編集しppp.comにオプションを追加してください。

```
ppp -a 0xd0 -i 5 -b 9600
```

ご注意

ご使用になるモデムによって使用するPPPドライバが異なります。下記を参照してください。

PC98 版

ppp.com PC98 COMポート専用シリアルドライバ
pppnote.com PC98 PCMCIAモデムカード専用シリアルドライバ
PC9821 シリーズ用 高速転送モード対応シリアルドライバ

DOS/V 版

ppp.com COMポート / PCMCIAモデムカード共用シリアルドライバ

ご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 1994-1996 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM、CentreNETはアライドテレシス株式会社の商標です。

PC/TCPIはFTP Software, Inc.の登録商標です。

イーサネット(ethernet)はXerox社の商標です。

NeXTはNeXT Computer, Inc.の商標です。

NetWareはノベル社の登録商標です。

IBM-PC/XT/AT、PC DOSはIBMの商標です。

Sunは米国Sun Microsystems, Inc.の登録商標です。

NFSは米国Sun Microsystems, Inc.の商標です。

NEWSはソニー株式会社の商標です。

System VはAT&Tの登録商標です。

Post ScriptはAdobe Systems社の登録商標です。

LASER SHOTはキャノン株式会社の商標です。

UNIXはX/Openカンパニーリミテッドがライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Microsoftは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MS-DOSは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Windowsは米国Microsoft Corporationの商標です。

一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。

Lotusと1-2-3はLotus Development Corporationの商標です。

J-3100、DynaBookは株式会社東芝の商標です。

PC-9800は日本電気株式会社の商標です。

80286、386、386SXは米国インテル社の商標です。

Netscape、Netscape Navigator はNetscape Communications Corporation の商標です。

この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。